

# 塚本遺跡Ⅱ

—非常用貯水槽設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2012. 03

甲 府 市

甲府市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、山梨県甲府市千塚一丁目2番16号、千塚小学校内に所在する塚本遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、非常用貯水槽埋設工事に伴う発掘調査であり、甲府市教育委員会が実施した。
- 3 本調査は、甲府市教育委員会文化振興課伊藤正幸(文化財主事)が担当した。
- 4 発掘調査の期間及び面積は以下の通りである。  
試掘調査：平成23年5月9日 面積 6 m<sup>2</sup>  
本調査：平成23年6月30日～7月29日 面積 210 m<sup>2</sup>
- 5 本書の執筆は伊藤正幸が行い、遺物の実測・トレース作業は内藤真千子・藤原由香・栗田かず子・上島光子・分部綾子が行い、その他の作業を伊藤が行った。
- 6 本書の編集は、中澤義明(文化振興課長)を責任者とし、伊藤が行った。
- 7 本書に係る出土遺物及び記録図面、写真などは甲府市教育委員会で保管している。
- 8 発掘調査参加者(敬称略・五十音順)  
荒木昭彦 金井いく代 久保田明義 倉田勝子 佐田金子 松野達夫  
望月宏美 望月貴美子 渡辺百合子

## 凡 例

- 1 本書に掲載した地図は、平成22年度甲府市都市計画図2500分の1を用いた。
- 2 遺物観察表中の色調は、『標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修1997後期)に基づいている。
- 3 遺構・遺物の実測図縮尺は、基本的には溝跡1/40、土坑1/40、出土遺物1/3であるが、大型の遺構や陶磁器・石製品には例外もあるため、図中に示した各スケールを参照願いたい。
- 4 セクション図に表記されている水平線の数値は、海拔高度を表し、単位はmである。また、セクションポイント表記のE・W・S・Nは、東西南北を表している。
- 5 遺物実測図で反転復元したものについては実測部分と復元部分の間にスペースを設けているが、全体を反転復元したものについては中央線部でスペースを設けて区別した。

# 目 次

例 言

凡 例

目 次

第1章 遺跡を取り巻く環境……………1

第1節 遺跡の地理的環境

第2節 遺跡の歴史的環境

第2章 調査概要……………3

第1節 調査に至る経緯

第2節 調査経過

第3節 試掘調査

第4節 調査の方法

第3章 遺構と遺物……………5

第1節 概 要

第2節 溝 跡

第3節 土 坑

第4節 遺構外の遺物

第4章 ま と め……………8

## 挿 図 挿 表 目 次

図 1	周辺の地形	2
図 2	調査地位置図	2
図 3	調査地及びその周辺	3
図 4	試掘溝配置図	4
図 5	調査地全体図	6
図 6	溝 跡	7
図 7	出土遺物 ( 1 )	9
図 8	出土遺物 ( 2 )	10
図 9	出土遺物 ( 3 )	11
	出土遺物観察表	12
	写真図版 ( 1 ) ~ ( 5 )	

# 第1章 遺跡を取り巻く環境

## 第1節 地理的環境

現在の甲府市域は、秩父山塊の主峰金峰山(2599m)を北端とし、また御坂山塊の三方分山(1422m)を南端とする。東西が7.2kmなのに対し、南北41kmに及ぶ、南北に非常に長い市域を有し、中央部は扇状地及び沖積原により構成される。

多良峠に発する相川は、湯村山と愛宕山とに挟まれた地域に小規模な扇状地を開析する。いわゆる相川扇状地で、その扇端部分は現在の甲府駅周辺に至る。この扇状地北側では中世において武田氏による甲斐国の支配及び領国経営が展開された、武田氏館及び武田城下町が位置した地域である。

扇端部を過ぎて南には、荒川の氾濫による沖積原が展開する。この沖積原は市域の中央部において濁川沖積原、さらに南部の笛吹川沖積原などと複雑に重複しながら複合沖積原を構成している。甲府城及び甲府城下町はこの相川扇状地扇端部分から沖積地へ移行する境界部分に形成された都市である。

本遺跡は甲府市域の西端に位置しているが、この付近は荒川による氾濫原にあたり、氾濫による微高地及び低湿地が連続的に存在している地域である。甲府盆地に北西側から流れ込む荒川は広域的には甲府市と甲斐市の境に扇状地を形成するが、定期的な大規模な出水があったと考えられており、甲府市内の千塚・音羽・荒川及び富士見等の各地域には自然堤防とその背後に展開する後背湿地を連続的に形成しているのである。本調査地点から南南東700mに位置する音羽遺跡の平成4年度から8年度にかけて三次にわたり行った調査では、埋蔵文化財の包含層である砂質の褐色土層が調査地全体に堆積しているその一方で、調査区の北西側では削り取られたような状態で砂質の褐色土層がほとんど確認されなかったと報告されている(「音羽遺跡」『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第125集』)が、これらは荒川の氾濫を物語るものであろう。

荒川の氾濫により形成された自然堤防上には、縄文時代から平安時代に至るまで連綿と遺跡が営まれているが、特に古墳時代から平安時代に至る遺跡が多く所在する。

## 第2節 歴史的環境

平成12年7月に山宮地区の区画整理に伴い発掘調査を行なった米草遺跡は、縄文時代前期末を主体とする集落跡で、土坑25基、溝跡7基、等とともに諸磯b式土器、珧状耳飾、石鎌等が出土している。外に縄文時代の遺跡としては、金塚西遺跡・西大坂A遺跡・西河原遺跡榎田遺跡・音羽遺跡等をあげることができる。

山梨県教育委員会により発掘調査が行われた榎田遺跡では、弥生時代後期から平安時代に至る住居跡27軒と方形周溝墓4基が検出されている。さらに音羽遺跡でも、弥生時代後期3軒、古墳時代後期4軒、奈良時代5軒の住居跡が



図1 周辺の地形

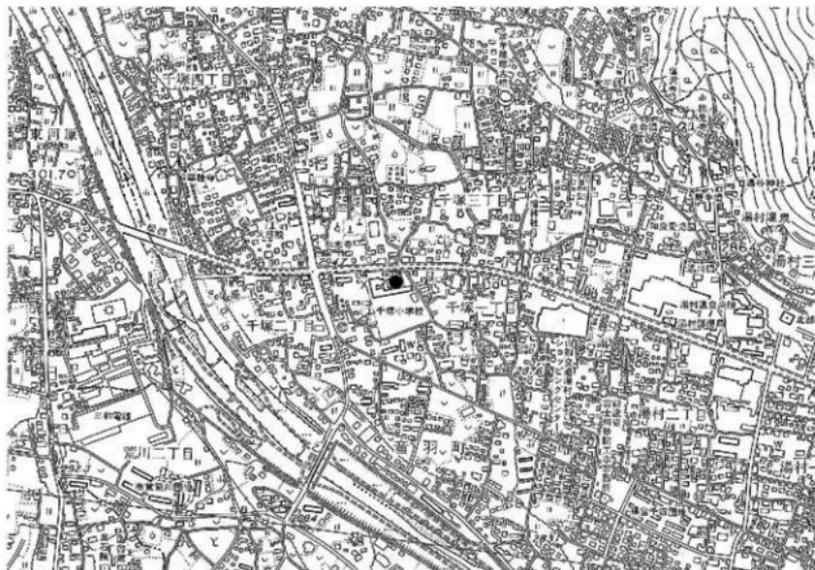


図2 遺跡の位置

確認されている。さらに本調査に先行して行われた千塚小学校校舎及び体育館地点の発掘調査でも、弥生時代後期から平安時代まで連綿と集落が維持されている状況が確認されており、甲府市西部における地域の特徴として捉える事が出来る。

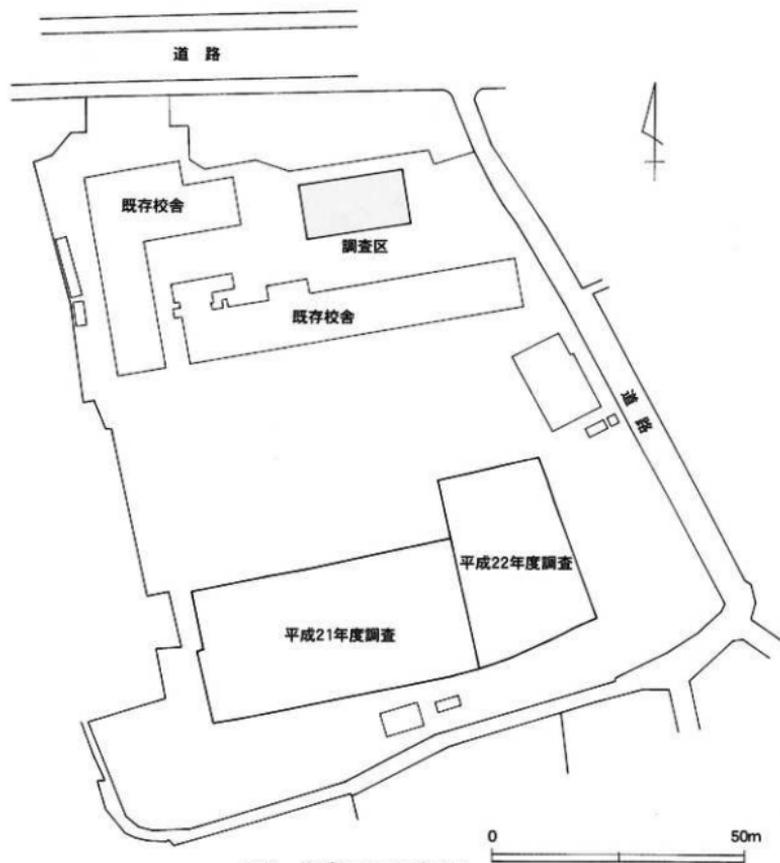


図3 調査区および周辺

## 第2章 調査概要

### 第1節 調査に至る経緯

今回調査した塚本遺跡は、甲府市立千塚小学校の敷地内北東端にある。

塚本遺跡ではこれまでに、学校の敷地南部において平成22年1月から3月にかけて校舎地点の調査が、また平成22年4月から7月にかけて体育館地点の調

査がそれぞれ実施された。延べ2,272㎡に及ぶ調査により、弥生時代後期の竪穴住居跡20軒、平安時代末の竪穴住居跡16軒、周溝墓8基のほか、土坑、土坑墓、河道等の遺構を検出するとともに、それらに伴って土師器・須恵器・灰釉陶器・銅製巡方などの遺物が出土している。

今回の非常用貯水槽設置にあたっては平成23年5月に試掘調査を行ったが、その調査により地表下0.3mの位置から溝状遺構1条とともに平安時代の土器が確認された。また、旧体育館基礎の下部1mを越えた地点は砂礫層になり旧河川の状況を示唆するものであった。これらの状況を平成22年度の調査と比較検討することにより、埋蔵文化財が存在する可能性が強いと判断された。特に貯水タンクは地表下5mの深い位置に埋設されるため、埋蔵文化財保護の観点から本調査に至ったものである。

## 第2節 調査経過

平成23年6月30日	発掘機材の搬入及び調査区の設定 埋蔵文化財発掘報告（保護法99条関係提出）
7月1日	重機による荒掘り開始（7月4日終了） 仮囲いフェンス及びプレハブ事務所の設置
7月4日	基準杭の設定
7月29日	材撤収・埋め戻し開始
7月30日	終了・プレハブ事務所及び仮囲いフェンス撤去
8月7日	埋蔵文化財保管証及び埋蔵物発見届の提出

## 第3節 試掘調査

試掘調査は平成23年5月9日に行った。2か所に試掘溝を設定し重機及び人力で調査を行い埋蔵文化財の有無を確認した。

### Aトレンチ(南北2m、幅1m、深さ1m)

旧体育館北側外郭基礎部分のため、地表下1mまで攪乱が及んでいた。その下層は砂層になり旧河川の可能性考えられる。この砂礫層からは遺物は確認されなかったが、平成23年度の新体育館地点の調査では、地表下3m地点の砂礫層の中から古



墳時代の遺物が確認されていることから、遺物が混入していることが考えられる。

#### B トレンチ(南北4m、幅1m、深さ0.3m)

旧体育館中央部に位置する。地表下0.3mと極めて浅い地点から、南北方向の溝状遺構が1条と、その上面から平安時代の土師器が検出された。新校舎建設の際の本調査でも平安時代の遺構・遺物が確認されていることから、今回の調査区対象地においても住居等の遺構があるものと考えられる。

以上のような試掘調査結果及び平成21年度に実施された新校舎建設に伴う発掘調査状況から判断し、本調査の必要性を結論付けた。

### 第4節 調査の方法

調査は重機により表面を30cm乃至50cmまで掘り下げ、その後人力によって精査し、遺構の検出を行った。

調査対象としたのは東西21.5m、南北12.5mの範囲である。これは平成23年度の体育館地点の調査により、地表下3mの砂礫層から古墳時代の遺物が確認されていることを考慮し、最大限の深さを安全に調査するために設定した調査区であり、そのため埋設される貯水タンクよりも大幅に広い調査となった。

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 概要

調査地は全体的に荒川の氾濫により運ばれたと思われる人頭大の礫が重疊して確認されており、その堆積する面が古墳時代の溝跡を掘り込む砂層にまで及んでいる。またこの砂層まで学校施設(旧千塚国民学校を含む)をはじめとする近代以降の攪乱を受けているため、埋蔵文化財の検出は非常に困難であった。

このような状況の中で時代をある程度確定できる遺構は、溝跡1条のみであり、土坑については出土遺物が伴わないため時期の特定には至らなかった。

### 第2節 溝跡

B-1 から D-2 グリッドにかけて検出された。検出部分で最長6.5m、最大幅は4.5mを測る。溝の南壁部分は調査区外にのびているため、また西及び東側は攪乱されているため、全体の掘り込みを確認するには至っていないが、比較的平らで広い底部を有するものと思われる。南半分程度まで、上面は人頭大の礫が重疊し、全体的には黒もしくは褐色の砂が堆積する。検出部分の最も深い位置で0.7m

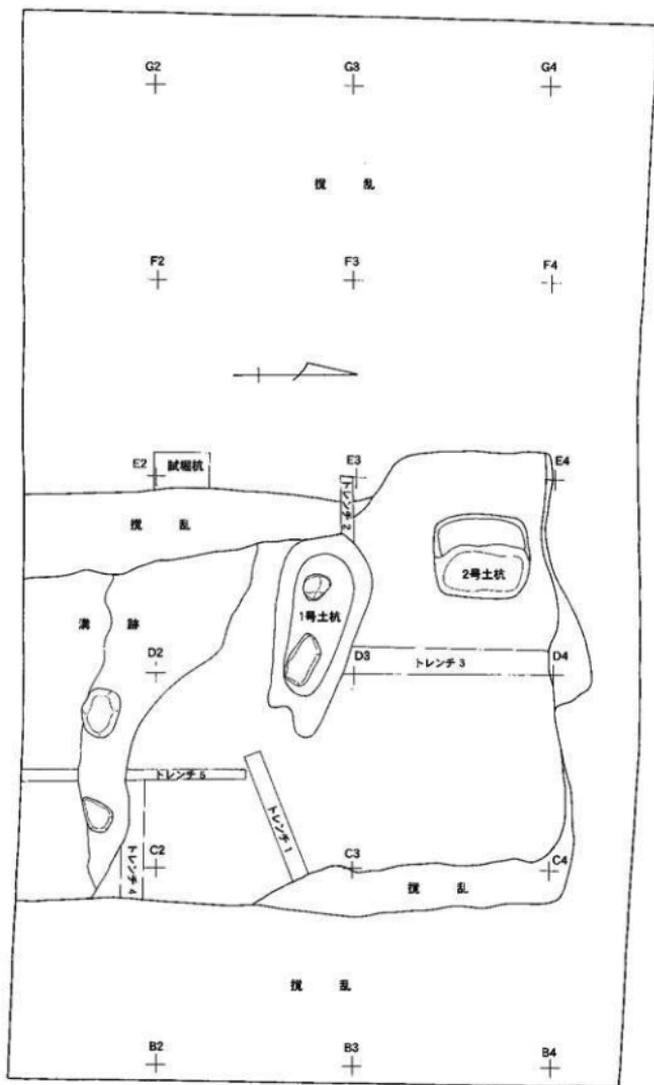


図5 調査区全体図



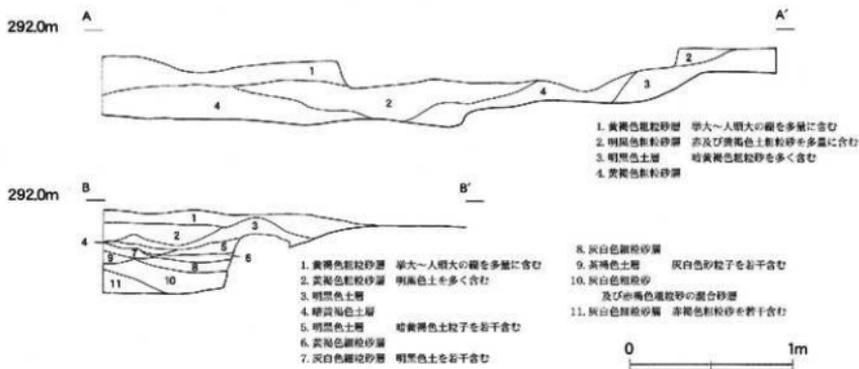
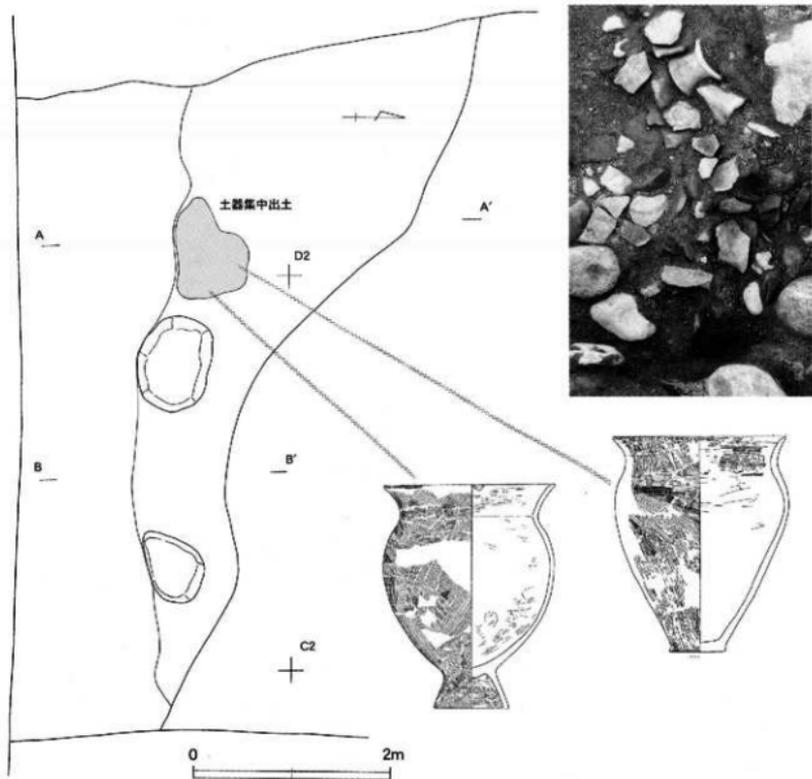


図6 溝跡

程度である。

遺物は溝跡内部の中央やや西寄りから、古墳時代の遺物が集中的に検出した。甕・台付甕・高杯等で、このうち甕及び台付甕は復元が可能で、台付甕にはススが付着していた。溝内へ廃棄されたものとも考えられる。

また、同位置から出土した須恵器は、菱形の外観を呈し、やや湾曲していることから甕あるいはつぼ等の再利用品とも考えられるが、再加工品ではないことが遺物の観察で確認された。用途は不明である。

内部の西側付近では、複数の内耳鍋のつまみ（内耳部分）が確認された。深さ5～7cmと比較的浅く、壁面も丁寧に調整されている。

### 第3節 土坑

D-2及びD-3グリッド中に確認された。

1号土坑はD-2グリッド中に主体部分がある。長軸4m、短軸1.5mほどの長楕円形で、深さ60cmを測る。西壁の掘り込み部分が若干攪乱されているが、内部に大型の礫が2個納まっている。遺物として近世以降の皿及び鉢が確認されているが、いずれも小破片であった。

2号土坑はD-3グリッド中に確認された。長軸2m、短軸1.5mのほぼ長方形のプランを示し、内部は2段になっていて、西から東に向かい、ほぼ中央部分に20cmほどの段差を有する。遺物は確認されていない。

### 第4節 遺構外の遺物

サブトレンチを含めた遺構外からも古墳時代以降、近現代までの遺物が確認されている。特徴的な遺物として、ヒデ鉢が2個検出したほか、五輪塔の地輪1個も確認されている。

## 第4章 まとめ

今回の調査により確認できた遺物を伴う遺構は溝跡1条のみであった。これは、先に行われた校舎及び体育館建設に伴う調査に比べるとあまりにも貧弱である。千塚小学校は大正9年9月に千塚尋常小学校として現位置で落成式を行っている。その後昭和16年に千塚国民学校と改称したが、終戦後の昭和22年に甲府市立千塚小学校に再度改称されて現在に至っているが、旧体育館をはじめとして、これまでに整地・施設の建設などが繰り返し行われたため、出土量が極端に少なかったものであろう。

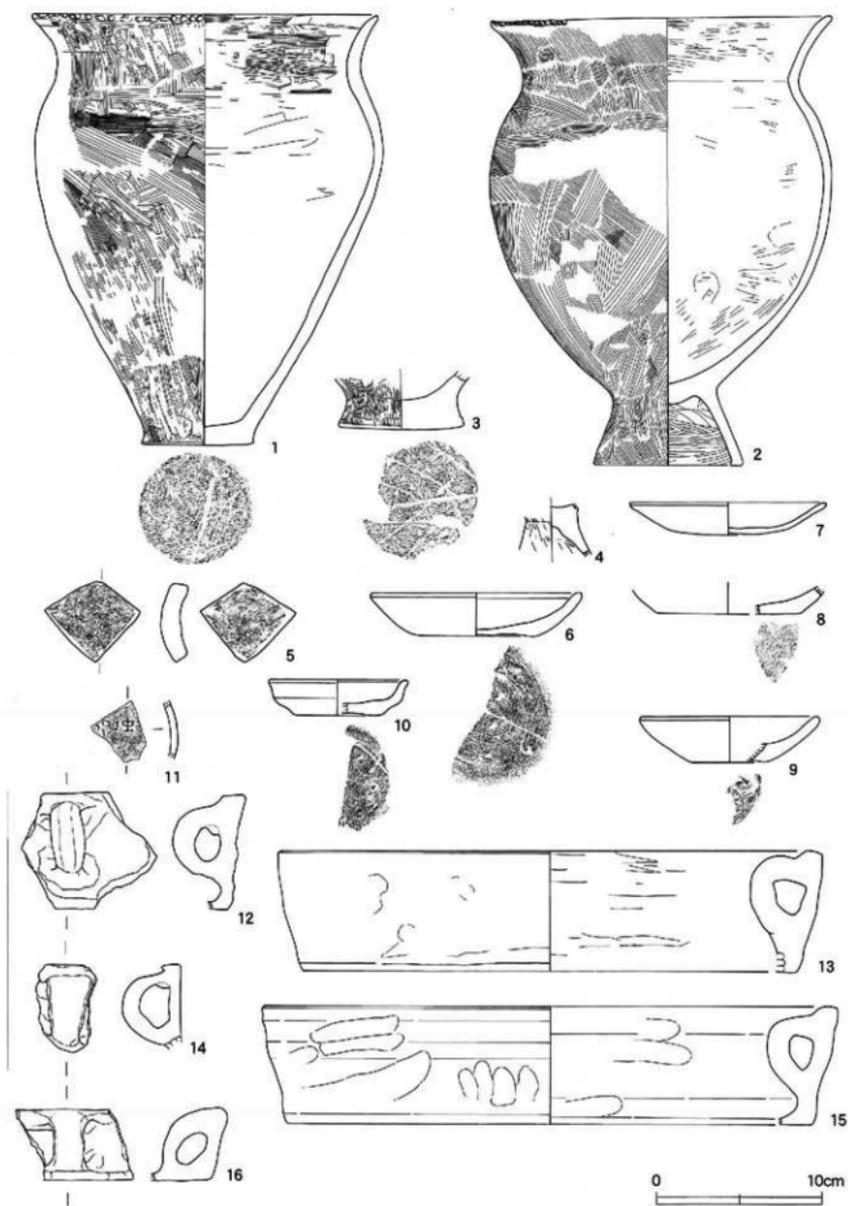


图7 出土遗物(1)

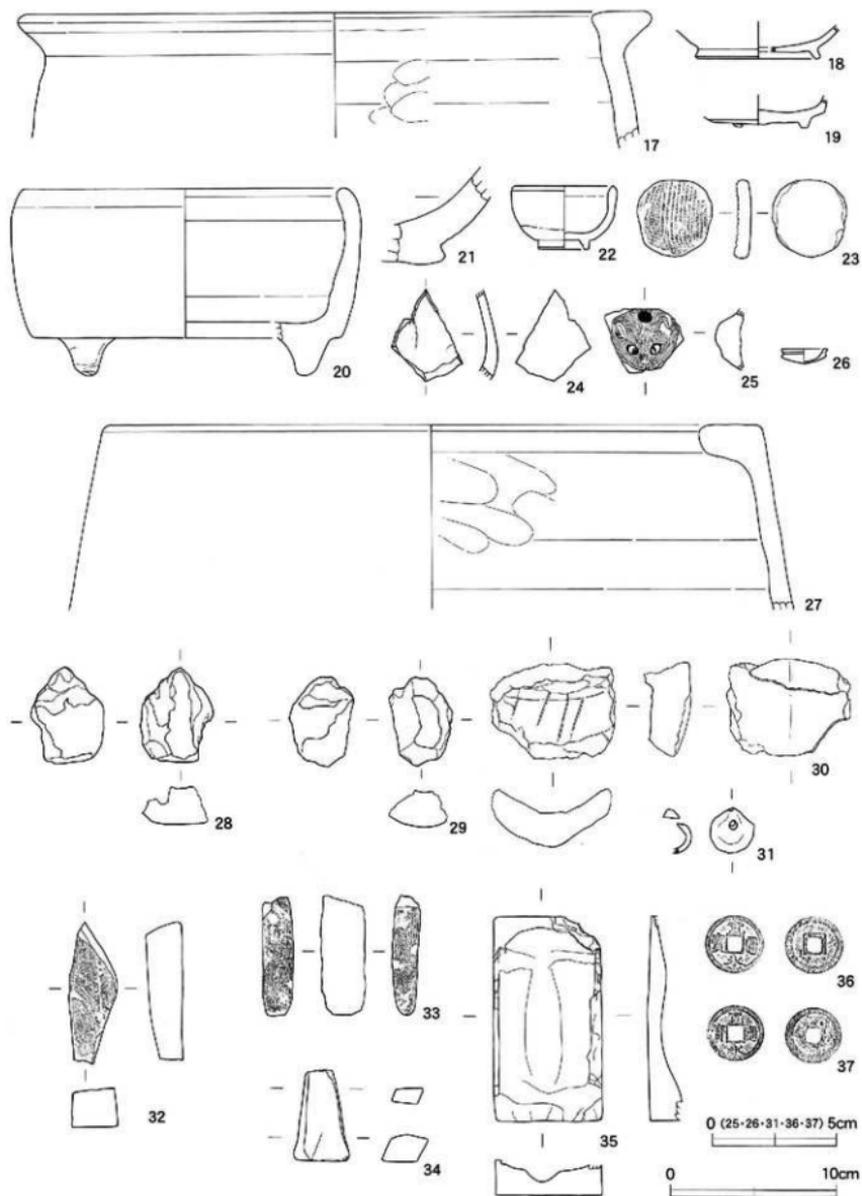


图8 出土遺物(2)

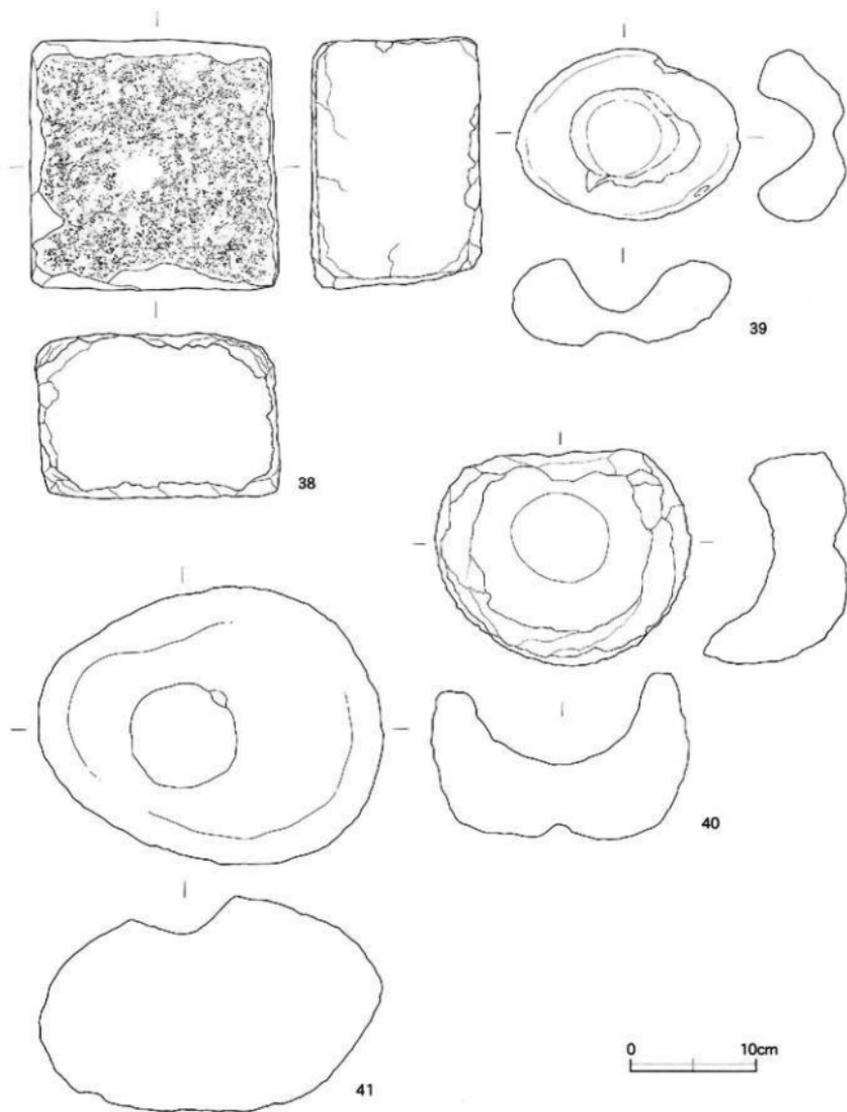
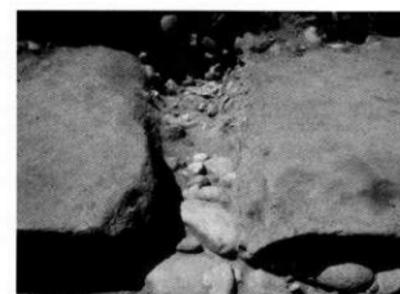
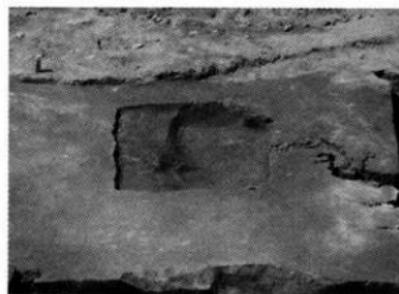
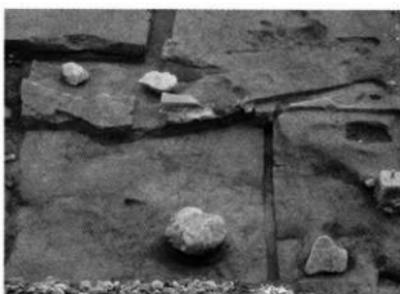


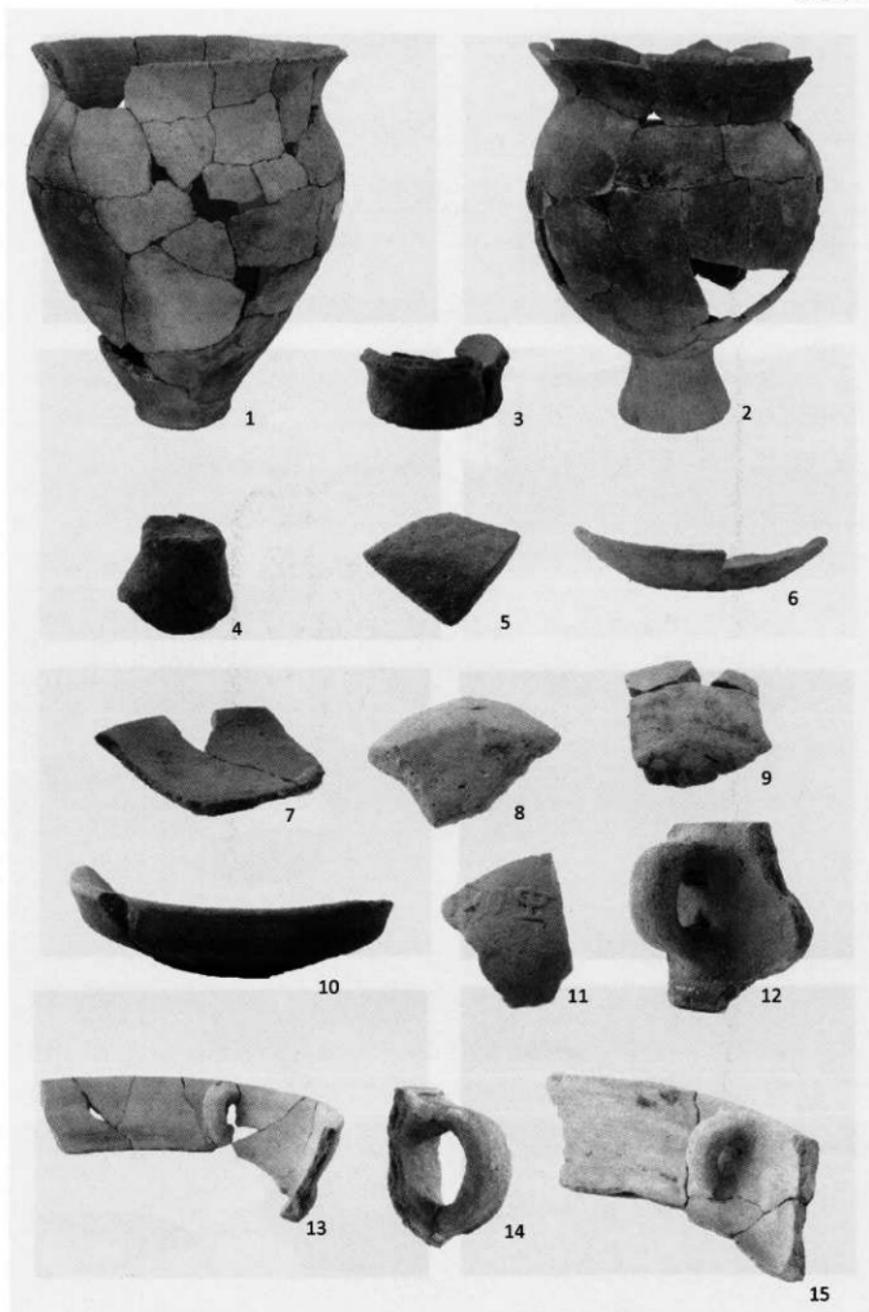
图9 出土遺物(3)

遺物観察表

図号	遺物番号	出土位置	種別	素材	寸法(cm)			残存部位	色調	残存率	時代・産地	備考
					口径	幅	厚さ					
図7	1	土器室中	土器	葉	20.7	26.3	8.7	口縁部～底部	内 部5YH6/8 外 径5A・幅2.5YH7/4	80	古墳	
図7	2	土器室中	土器	葉	21.6	27.6	9.0	口縁部～底部	幅7.5YH4/4 幅6YH4/4	60	古墳	スリ付者
図7	3	ST4	土器	葉	-	-	7.5	底部	幅5YH6/6	小片	古墳	
図7	4	B1	土器	高杯	-	-	-	底部	径5A・幅7.5YH5/4	小片	古墳	
図7	5	C1	土器	葉	27.4	34.3	厚さ 1.1	底部	径 8B1	100	古墳	用途不明
図7	6	C1	土器	葉	32.8	2.7	7.0	口縁部～底部	径2.5A・幅 7.5YH7/3	45	近世	カワラケ
図7	7	一折	土器	葉	12.6	2.0	3.2	口縁部～底部	幅4.5YH3/6	30	10世紀前半	
図7	8	一折	土器	葉	8.8	-	-	胴部下半～底部	幅7.5YH7/6	小片	近世	武烈園跡表状石
図7	9	一括	土器	葉	11.6	2.8	4.0	口縁部～底部	径2.5A・幅7.5YH7/3	20	近世	高津本宿遺構 カワラケ
図7	10	C1	土器	葉	8.6	2.2	5.6	口縁部～底部	径2.5A・幅7.5YH7/4 幅幅7.5YH7/1	45	近世	舟形スリ付者 カワラケ
図7	11	D1	土器	葉	-	-	厚さ0.5	胴部	径2.5A・幅2.5YH5/6	小片	近世	カワラケ
図7	12	C3	土器	内耳輪	-	7.0	-	口縁部～底部 内耳	幅幅7YH4/6 幅幅7.5YH7/1	小片	近世	新筆
図7	13	O1	土器	内耳輪	33.0	7.3	30.6	口縁部～底部 内耳	径7.5YH7/6 外径2.5A・幅幅10YH5/3	小片	近世	
図7	14	ST4	土器	内耳輪	-	-	-	口縁部～胴部 内耳	径2.5A・幅7YH4/4	小片	近世	標子 舟形スリ付者
図7	15	D1	土器	内耳輪	35.0	7.2	32.0	C口縁部～底部 内耳	径2.5A・幅7.5YH8/4 幅幅7.5YH4/2	50	近世	舟形スリ付者
図7	16	C1	土器	内耳輪	-	4.4	-	口縁部～底部 内耳	幅幅7.5YH3/1 径2.5A・幅7.5YH3/3	小片	近世	
図8	17	ST4	土器	葉	28.0	-	-	口縁部～胴部上半	径2.5A・幅7.5YH5/4	-	近世	
図8	18	一折	陶器	葉	-	-	7.0	胴部下半～底部	-	30	近世	神輪陶器
図8	19	SK1	陶器	葉	-	-	5.8	胴部下半～底部	-	60	近世	内径内径付者
図8	20	ST3	土器	火鉢	18.6	11.1	14.6	口縁部～底部	幅幅5YH4/6	30	近世	口縁部スリ付者
図8	21	SK1	陶器	鉢	-	-	-	胴部下半～底部	-	小片	近世	瀬戸
図8	22	D3	陶器	鉢	5.9	2.8	2.9	底部	-	55	近世	
図8	23	折	陶器	葉	径4.6	径6.9	-	-	径2.5A・幅2.5YH4/4	小片	近世	種輪の軸用
図8	24	一括	陶器	鉢	-	-	-	胴部下半	径V・幅2.5YH3/1	小片	近世	神輪陶器
図8	25	ST4	陶器	葉	3.2	2.5	1.1	胴部	径3.2.5YH1	小片	近世	
図8	26	C2	磁器	蓋付器	1.9	0.6	1.5	底部	-	100	近世	
図8	27	ST3	土器	火鉢	39.2	-	-	口縁部～胴部	幅2.5YH7/1	-	近世	
図8	28	C1	土製品	硝子	-	-	-	胴部	幅4.5YH5/6	小片	近世	表石・石製器入
図8	29	C1	土製品	硝子	-	-	-	胴部	径2.5A・幅7.5YH6/4	小片	近世	表石・石製器 蓋付器
図8	30	ST3	土器	高杯	-	-	-	底部	幅5YH7/6	小片	古墳	
図8	31	H2	土製品	土物	1.6	2.6	2.6	1/2	幅7.5YH8/6	30	古代	
図8	32	ST3	石製品	硝子	8.3	2.7	2.2	底部	径2.5A・幅5YH4/4	100	近代	
図8	33	ST3	石製品	硝子	7.3	2.8	1.9	底部	幅幅7.5YH7/1	100	近代	
図8	34	SD1	石製品	硝子	2.6	3.2	1.6	底部	-	100	近代	
図8	35	SD1	石製品	硝子	12.4	6.5	1.9	硝子硝子	-	95	近代	
図8	36	一折	硝子	葉	2.4	0.6	0.1	底部	-	100	近世	表石硝子 蓋付器
図8	37	一括	硝子	葉	2.3	0.6	0.1	底部	-	100	近世	表石硝子 蓋付器
図8	38	一括	石製品	硝子輪	20.4	19.9	13.7	底部	-	100	近代	硝子
図8	39	折	石製品	硝子	140.0	18.0	7.0	底部	-	100	近代	硝子輪
図8	40	一括	石製品	硝子	17.5	20.7	13.7	底部	-	100	近代	硝子輪
図8	41	一括	石製品	硝子	27.7	22.7	17.5	底部	-	100	近代	









16



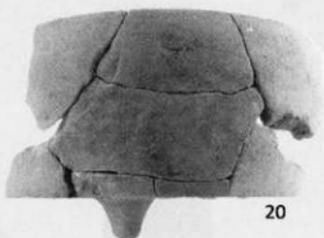
17



18



19



20



21



22



23



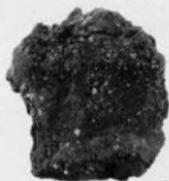
24



25



26



28



29



27



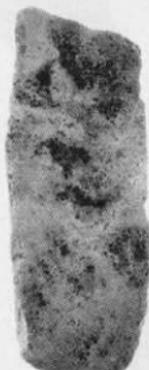
30



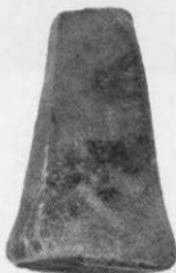
31



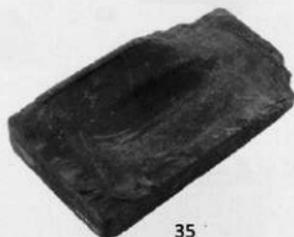
32



33



34



35



36



37



38



39



40



41

# 報告書抄録

ふりがな	つかもといせき						
書名	塚本遺跡Ⅱ						
副書名	非常用貯水槽設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	甲府市文化財調査報告						
シリーズ番号	56						
編集機関	甲府市教育委員会						
所在地	400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話055(223)7324						
発行年月日	平成24年3月23日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号			調査面積	
塚本遺跡	山梨県甲府市千塚一丁目1851-1,1852,1853	19201	19	35°40'51"	138°32'28"	2011.7.1 ～ 2011.7.31 260㎡	非常用貯水槽設置工事
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
	散布地	古墳・中世	溝跡 土坑		台付甕 内耳鍋		特になし

甲府市文化財調査報告56

## 塚本遺跡Ⅱ

-非常用貯水槽設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

平成24年3月23日

発行 甲府市・甲府市教育委員会  
 〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号  
 電話 055(223)7324  
 FAX 055(226)4889

印刷

